

- 一、 癸卯（みずのとう・キボウ）の年
- 二、 暮れに新型コロナウイルスに感染
県の対応に感謝
- 三、 今、国の内外で、多く困難と不安の中に私たちは置かれています。特に、国外では、ロシアによるウクライナ侵攻、国内においては、新型コロナウイルスの感染症流行が四年目を迎えても未だに収束が見えてこない現状があります。
- 四、 布教伝道は、仏祖の広大の慈恩に報いる行持です。道元禪師は『正法眼蔵』『行持』の巻で
『佛祖の大道、かならず無上の行持あり、道環して断絶せず、発心・修行・菩提・涅槃、しばらくの間隙あらず、行持道環なり』
とお示しです。
- 五、 十年程前、自分の生み出す法話に行き詰りを感じていた時、内館牧子さんのエッセイに記されていた言葉に心が動かされました。脚本家の橋田壽賀子さんが、後輩である内館さんが初めて脚本を手掛けるときに送ったただ一つのアドバイスが
『出し惜しみしちゃダメよ』
これは強烈だった。さらにおっしゃった。
『半年間も続くドラマだから、つついこの話は後に取っておこうとか、この展開はもう少ししてから使おうとか考えがちなの。でも、後のことは考えないで、どんどん投入するの。出し惜しみしない姿勢で向かえば、後で窮しても必ずまた開けるものよ』。
- 六、 私は、この言葉に背中を押されました。「そうだ。法話の教場で、今自分が、最も聴衆に訴えたい教えを後先を考えずに伝えよう」と気持ちを新たに致しました。
- 七、 一昨年、橋田さんがお亡くなりになり特集番組が放送された折、あの言葉の奥にある真意がわかりました。それは、戦時中に同世代の男性が出征して次々と命を落としていく現実をご覧になっていたからだなのです。明日の命の保証がないからこそ、今できる最高のつとめを果たしていくことを信条とされたのです。
- 八、 一発菩提心を百千萬ひやくせんまんぼつ発するなり。

正法眼蔵「発無上心」の巻より